

# 陽のまど・集熱パネル



【A】予備集熱面+集熱パネル

## 施工要領書

取付工事を始めるの前に必ずこの説明書をお読みになり、正しく安全に取付けて下さい。取付工事は販売店様、または専門の工事店様が実施して下さい。

## 安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で説明しています。

 <b>警告</b>	取扱いを誤ったときに、作業者が死亡または重傷を負う危険があることを示します。
 <b>注意</b>	取扱いを誤ったときに、作業者が軽傷を負うか、物的損害のみの発生が想定されることを示します。

### **警告**

●天候不良時には、絶対に施工しないで下さい。

集熱パネルが突風で煽られたり、濡れた屋根面から滑落したりして大変危険です。

●集熱パネルの上には極力載らないで下さい。

集熱パネルの上には極力載らないようにして下さい。滑落やガラス破損の危険があります。

●安全対策を徹底して下さい。

施工時にはヘルメット、手袋、安全帯を着用し安定した足場を確保して安全第一で作業して下さい。

### **注意**

●必ず2人以上で作業して下さい。

集熱パネルは1基約36kgの重量がありますので、必ず2人以上で作業して下さい。

●ガラスに注意して下さい。

集熱パネル表面には、ガラスが取付けられていますので、保管時、施工時には破損に注意して下さい。

# 製品リスト

陽のまど・集熱パネルには横設置用と縦設置用の2種類があり、次のように使い分けします。

## 横設置型集熱パネル

- 1つの屋根で太陽光発電と空気集熱式ソーラーを併用したい場合
- バルコニー手摺等に設置したい場合

## 縦設置型集熱パネル

- 間口の狭い建物で集熱面積を多く確保したい場合

名称	仕様	型名
横設置型集熱パネル・L	L仕様（左端用）	HDAC-YL
横設置型集熱パネル・C	C仕様（中央用）	HDAC-YC
横設置型集熱パネル・R	R仕様（右端用）	HDAC-YR
縦設置型集熱パネル・L	L仕様（左端用）	HDAC-TL
縦設置型集熱パネル・C	C仕様（中央用）	HDAC-TC
縦設置型集熱パネル・R	R仕様（右端用）	HDAC-TR

上記のように集熱パネルにはL, C, Rの3仕様があり、これらを連結して集熱面を構成します。ファンの送風能力とバランスを取る関係から集熱パネルは2枚以上で計画して下さい。

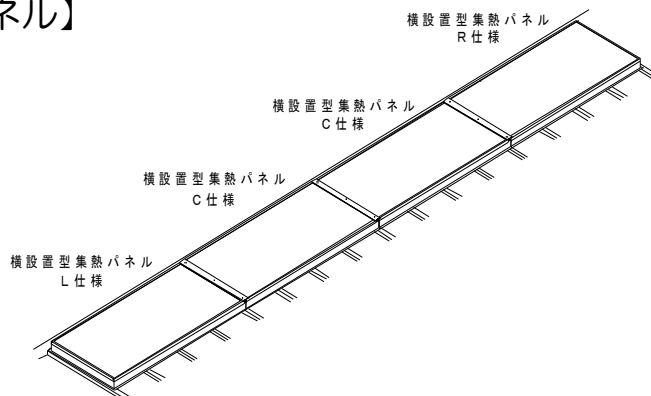
# 製品仕様

## 製品仕様（C仕様）

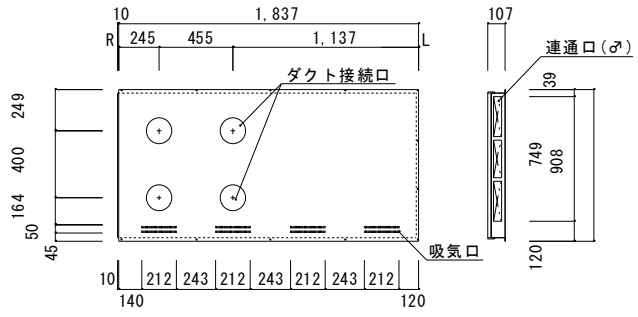
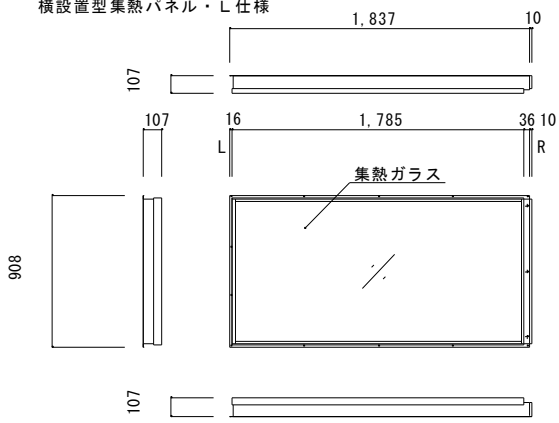
寸法(mm)	W908×L1820×D107		重量(Kg)	36
材質	カバーガラス	高透過型ガラス（表面エンボス処理）		
	箱体	塗装ガルバリウム鋼板		
	断熱材	イソシアヌレートフォーム(不燃材料)		

製品仕様は、予告なく変更する場合があります。

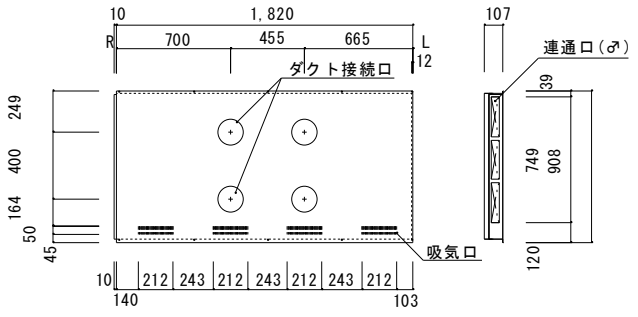
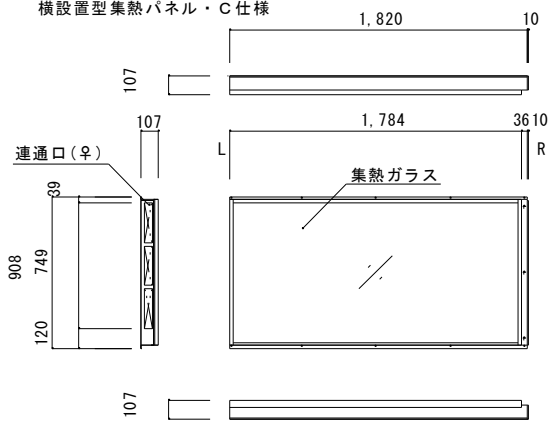
## 【横設置型パネル】



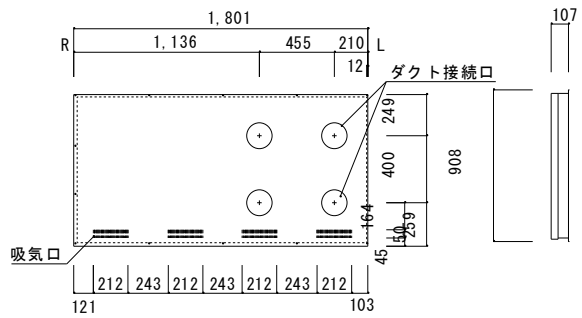
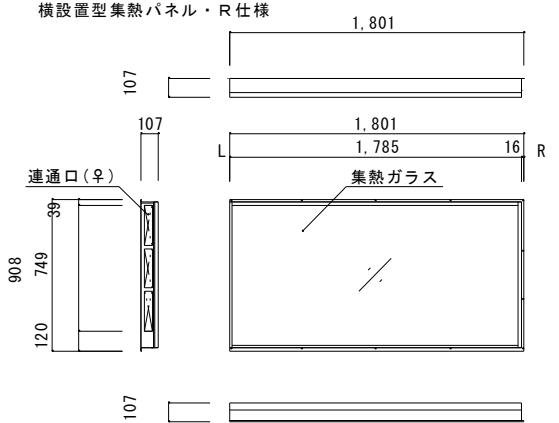
横設置型集熱パネル・L仕様



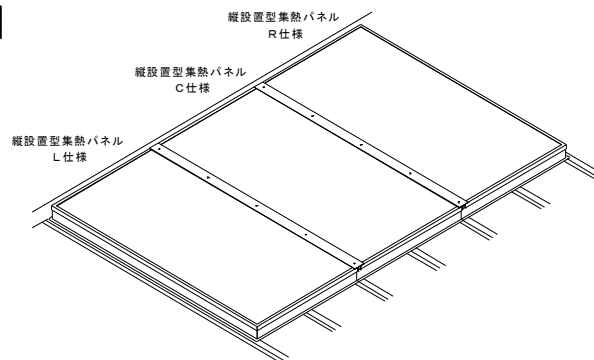
横設置型集熱パネル・C仕様



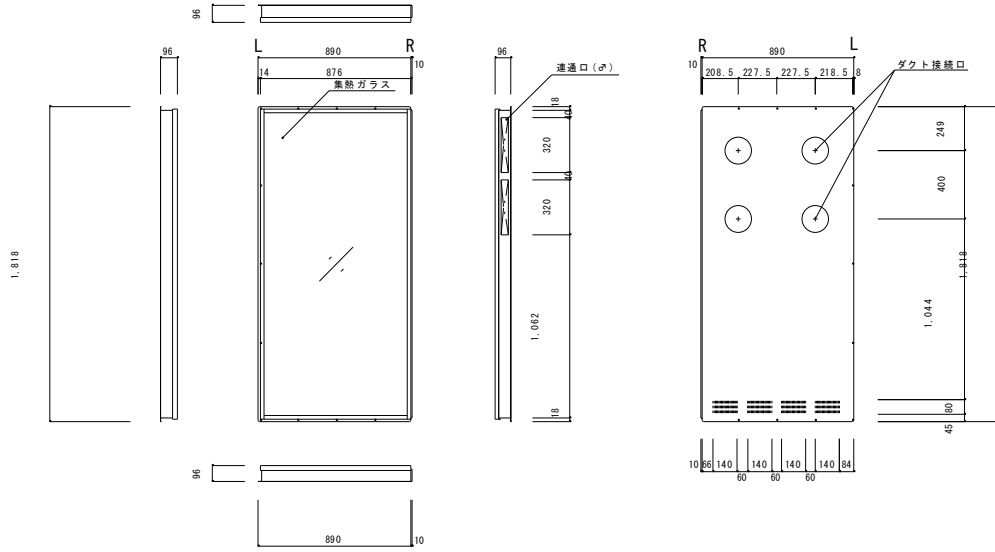
横設置型集熱パネル・R仕様



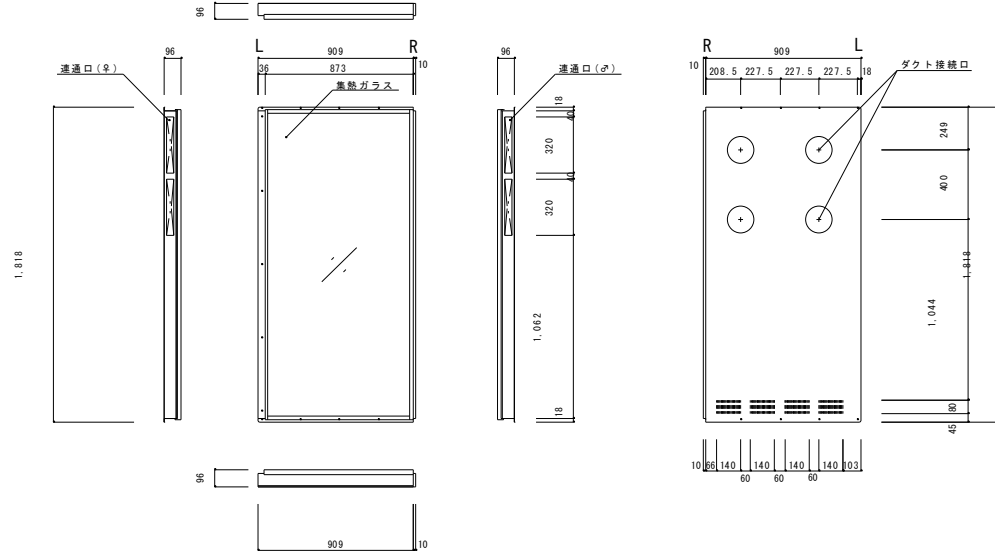
【縦設置型パネル】



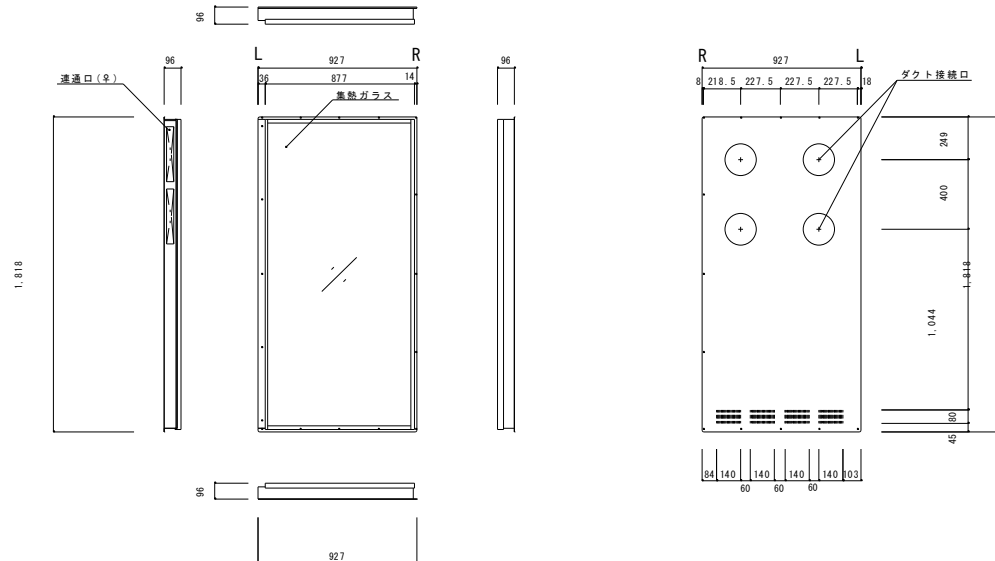
縦設置型集熱パネル・L仕様



縦設置型集熱パネル・C仕様



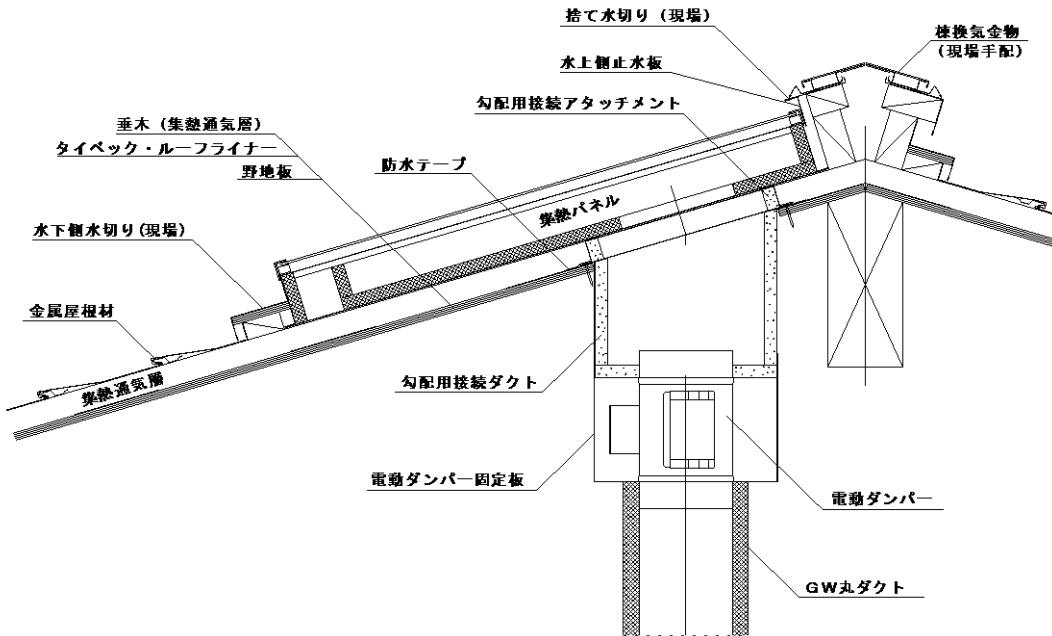
縦設置型集熱パネル・R仕様



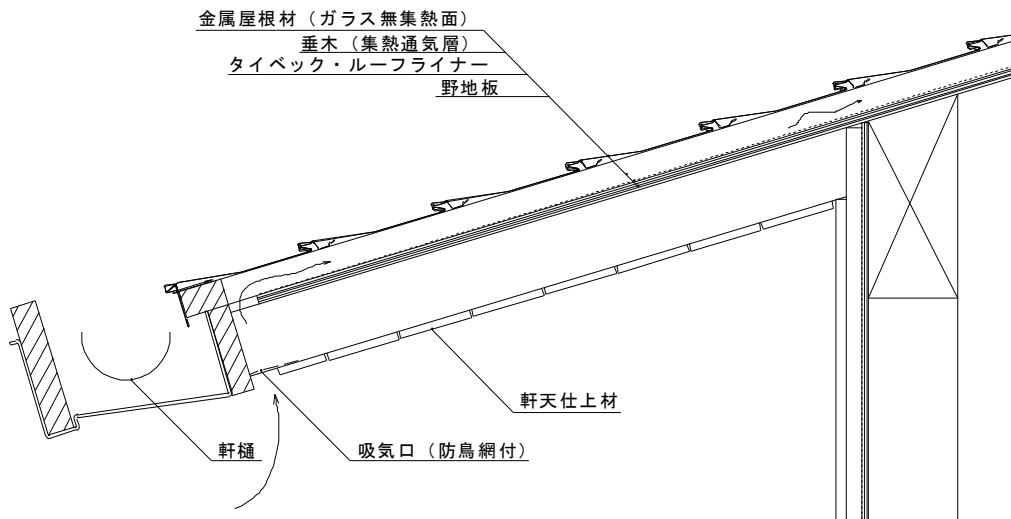
# 施工方法

## 1、屋根集熱の場合

集熱パネルとガラス無集熱面（金属屋根面）とを組み合わせた集熱屋根構造とする場合、使用する屋根材や屋根形状、大きさ等の建物条件によって納まりは様々です。屋根として必要な性能を確保しつつ、集熱できる構造をつくりましょう。



集熱パネルを通気層分浮かせて設置し、棟換気金物によって通気できる構造とする事により夏のファン停止時にも熱気が籠らないようにします。

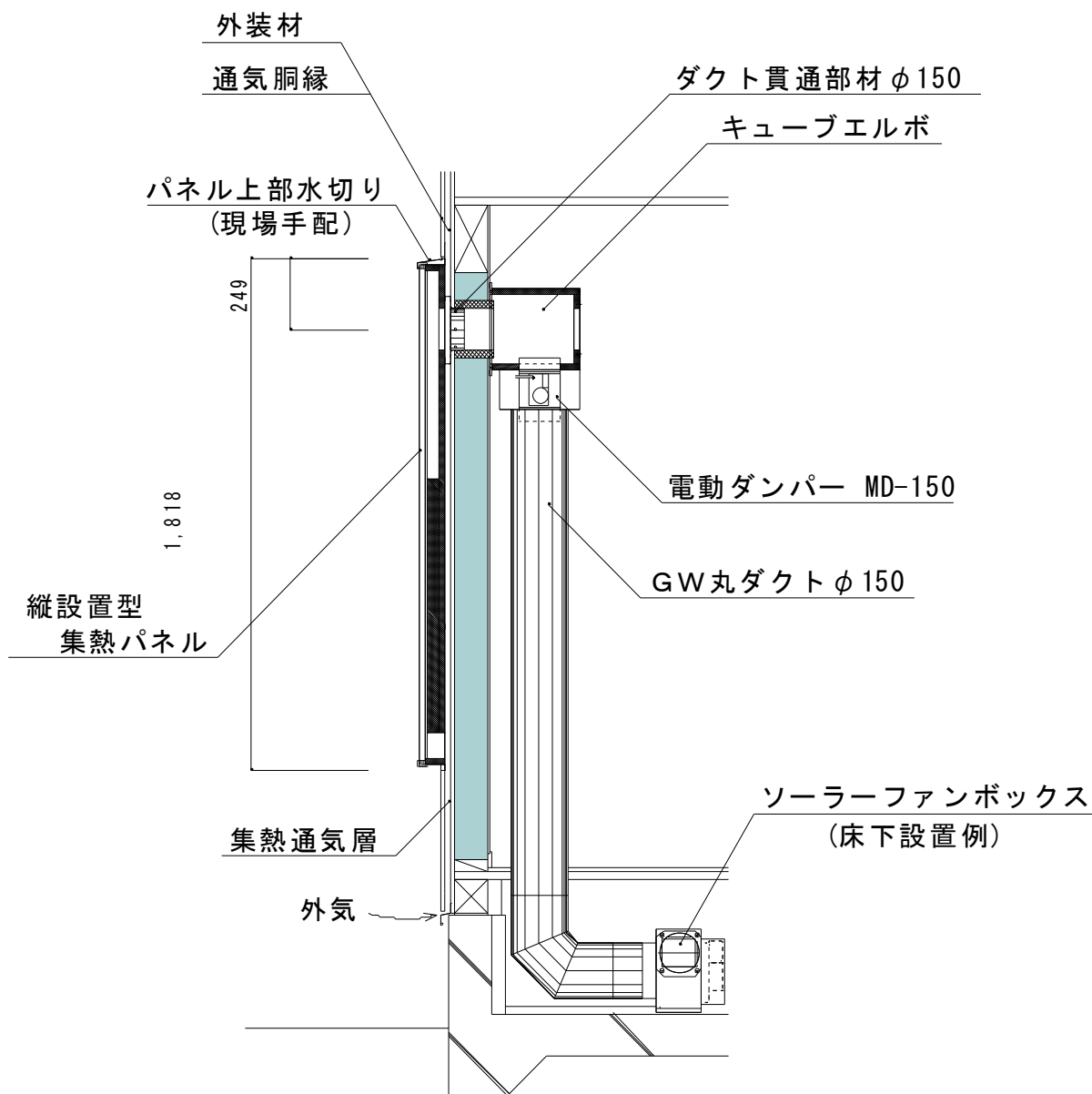


### 軒先・吸気口廻り納まり図

吸気口には鳥やコウモリ等が侵入しないように防鳥網（SUS平織金網 0.75×5メッシュ又は1.1×4メッシュ程度）を取付けて下さい。あまり目の細かい網を使用すると砂埃等によって目詰まりし、吸気できなくなる恐れがありますので注意して下さい。

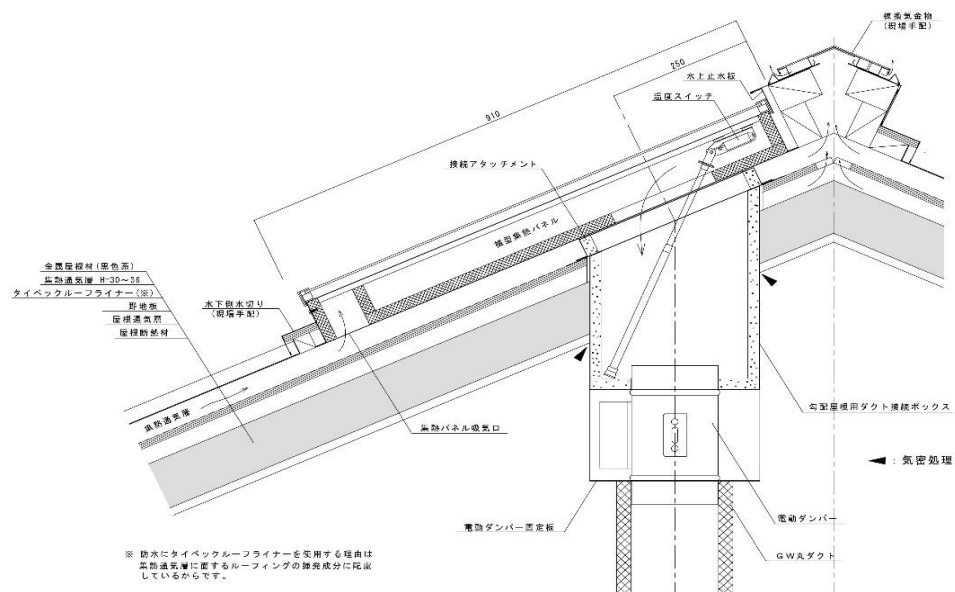
## 2、壁集熱の場合

外壁面に集熱パネルを設置する場合、外装材裏の通気層から集熱空気を取入れるとスマートです。通気層の高さは21mm~30mm確保できる材厚の胴縁を455mm間隔で配置し、その上に集熱パネルを取付けます。パネルの四周は外装材で囲み、パネルとの取り合い部はコーキング処理します。パネル上面には水切り（現場手配）を取付けて雨水が溜まらないように配慮して下さい。壁の内外をつなぐダクト貫通には、通気層高さに合わせたダクト貫通部材を用意しています。室内のダクト、ファンのレイアウトは自由ですが 極力搬送ロスが少なくなるように計画して下さい。下図は、床下にソーラーファンボックスを設置した例です。

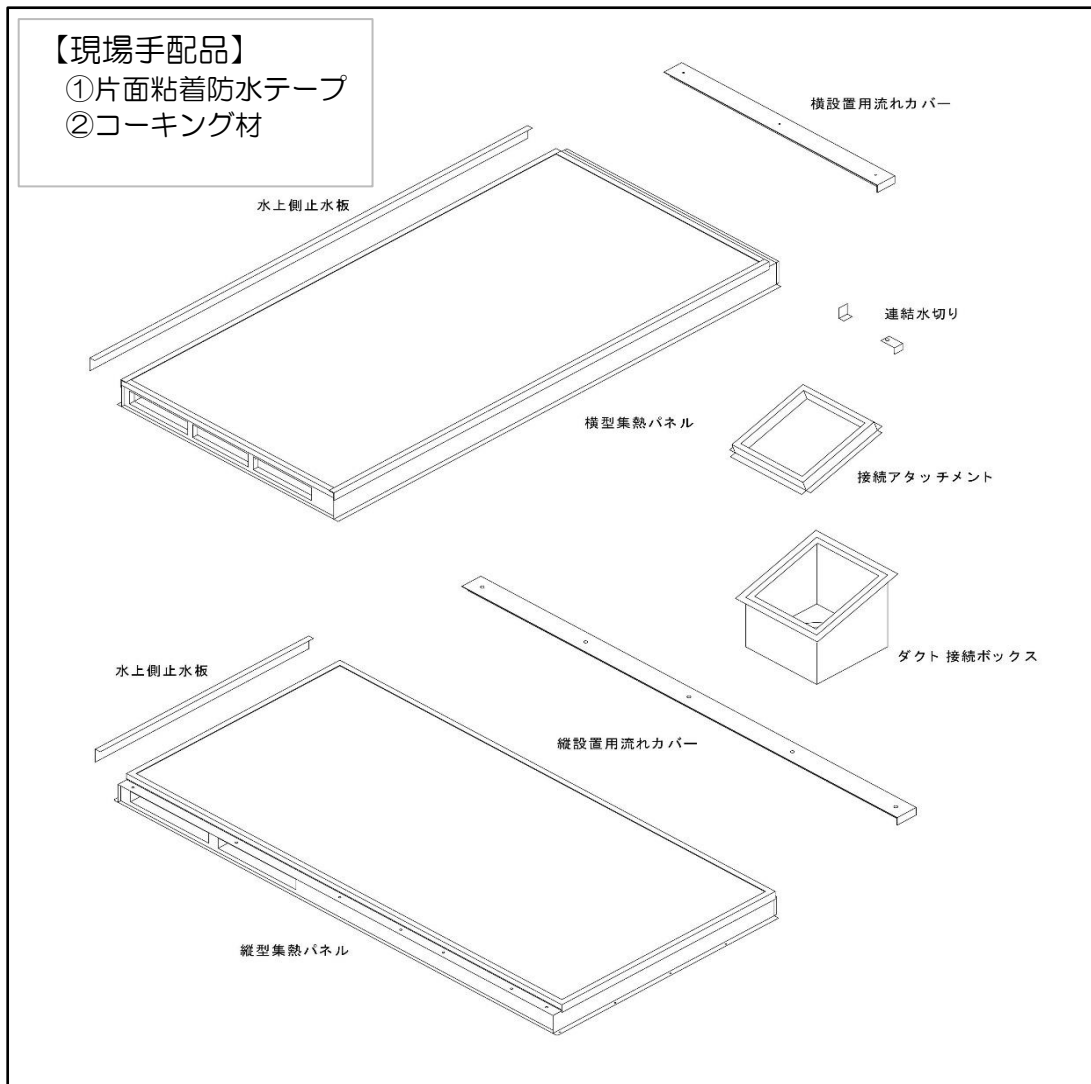


※本図はあくまで参考納まりであって、施工方法を限定するものではありません。  
設計者、施工者の判断によって、適切に設置して下さい。

### 3、予備集熱面＋集熱パネル



### 4、部材リスト



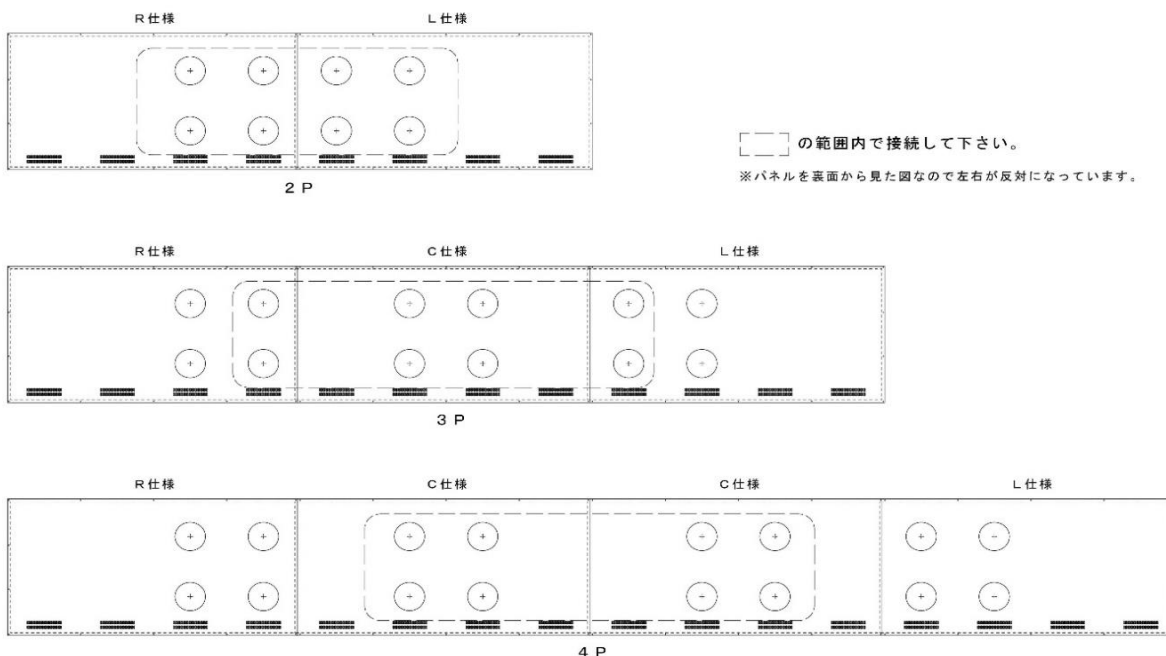
## 5、ダクト接続のルール

陽のまどの集熱パネルは、集熱部とダクト部が一体化された二層構造になっています。パネル厚を極力抑えるようにしている関係でダクト部の空気抵抗が大きくなっており、集熱面全体で均等に空気が流れるようにしようとすると室内へのダクト接続位置は、中央部から取入れるのが望ましいです。例えば横設置型集熱パネルを4枚接続して集熱面を構成する場合、左端のパネルにダクトを接続して集熱空気を取入れようとすると、接続口に一番遠い右端のパネルの空気流量が少なくなり、全体にアンバランスな空気流れになってしまうでしょう。空気流量が少ないと集熱温度は上がり過ぎてしまい、多過ぎると上り難くなってしまいますので、安定した集熱量を確保するためには次のようなダクト接続位置のルールに従って計画して下さい。

集熱パネル裏面には、4か所のダクト接続口が用意されています。この内の1か所を使用してダクトを接続しますが、その接続位置はパネルの接続枚数により定められていますので、下図に従って接続位置を決めて下さい。

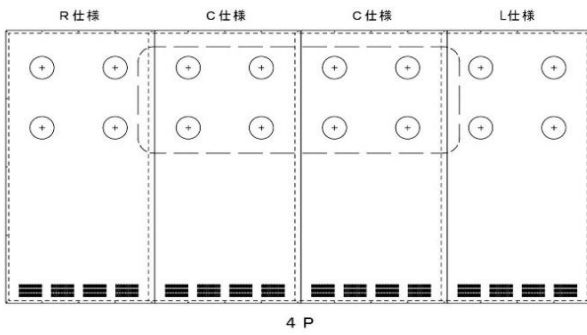
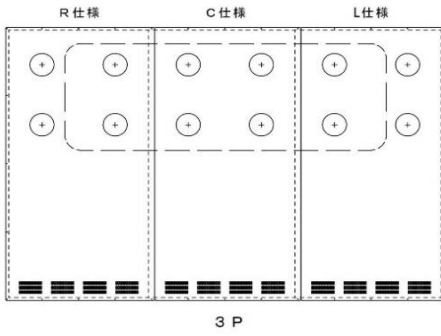
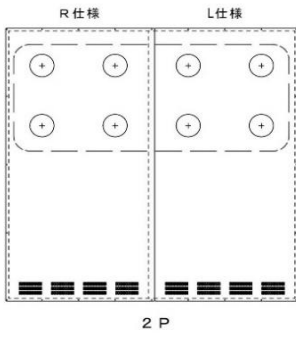
下図の指定範囲外で接続した場合、ファンが集熱空気を十分に取入れられなくなります。状況によっては、ファンの耐久性が著しく損なわれることがありますので必ず従って下さい。

### 横設置型集熱パネルのダクト接続位置

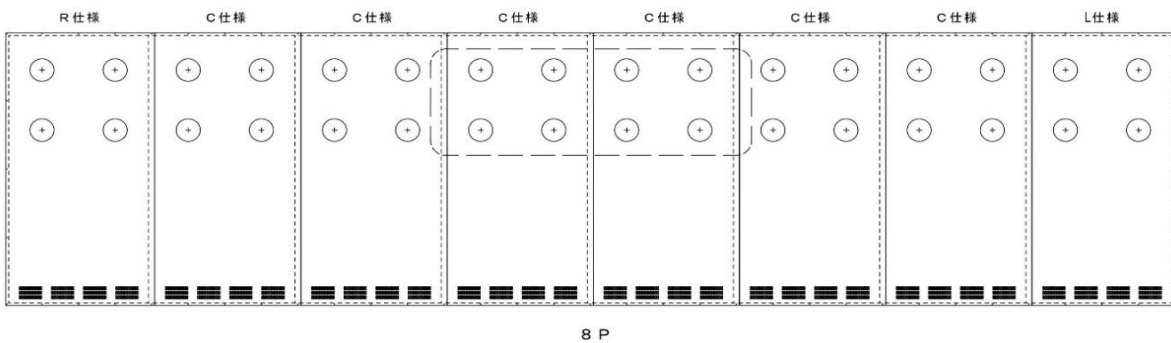




# 縦設置型集熱パネルのダクト接続位置



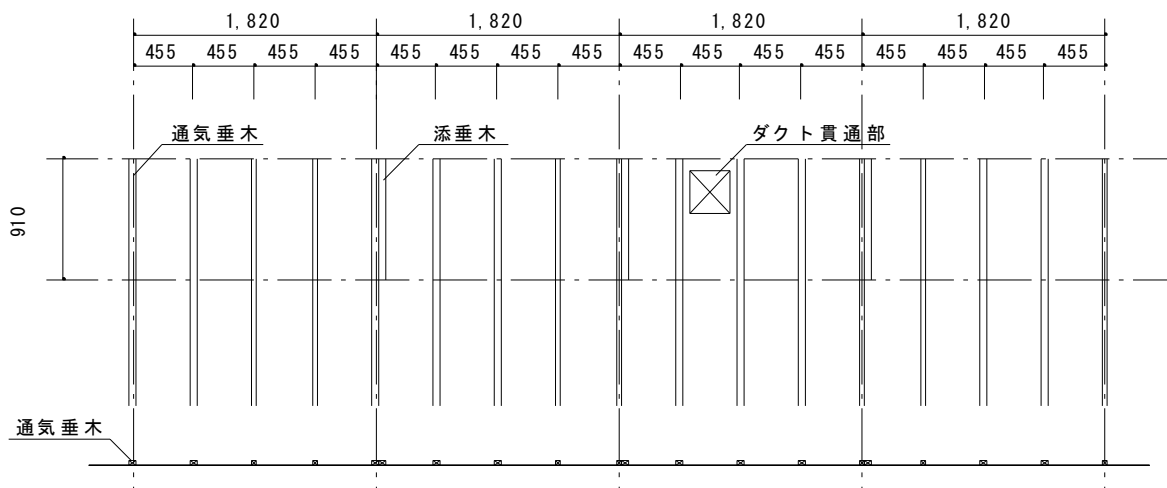
□ の範囲内で接続して下さい。  
 ※パネルを裏面から見た図なので左右が反対になっています。






## 6、墨出し～通気垂木の配置

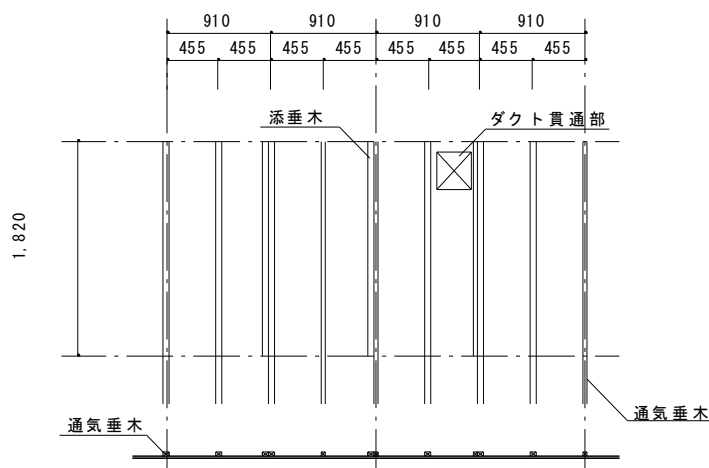
集熱通気層は、通気垂木(30～45mm程度)を455mm間隔で配置し、その上に集熱パネルを設置します。棟から集熱パネルの設置位置を求めダクト貫通位置を屋根面に墨出しします。各パネルのダクト接続位置は「製品仕様」の外観図を参照して下さい。パネルの連結部には、下図のように添え木を取付けるか、幅広(60～90mm)の材を使用して集熱パネル固定用の下地として下さい。

### 通気垂木の割付 (横型集熱パネル4枚の例)



 <b>警告</b>	集熱空気層に使用するルーフィングは、ホルムアルデヒドやVOC等、有害物質を発生させないものを選んで下さい。推奨品：タイベック・ルーフライナー
 <b>注意</b>	集熱空気層に使用する垂木材は、耐久性に優れる樹種の乾燥材を使用して下さい。
 <b>注意</b>	ガラス無集熱面の金属屋根材は裏側が通気層になります。垂木は基本455mm間隔で配置しますが金属屋根に載って作業できるように必要に応じて支持材を取付けて下さい。

### 通気垂木の割付 (縦型集熱パネル4枚の例)



各集熱パネルのダクト接続口は、通気垂木を455mm間隔で割り付けた場合の垂木間中心に位置するようになっていきます。

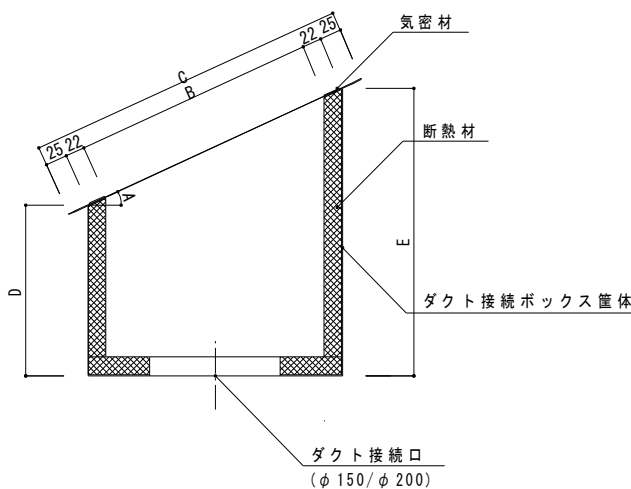
流れ方向についてはパネル上端から下方へ249mmが上の接続口。そこから400mmが下の接続口で、これは横設置型、縦設置型ともに同じです。

## 7、ダクト貫通部 屋根集熱の場合

7-1 「6」の墨に従ってダクトを貫通させるための穴を野地板に開けます。

下表の屋根開口寸法に合わせて野地面に貫通穴を開けます。

ダクト接続ボックスは、建物に対して垂直に落とし込みます。野地面に対して垂直に開口を設けるとボックスが納まりませんので注意して下さい。



下表のD,E寸法については、屋根の層厚に合わせた特注寸法品も製作します。

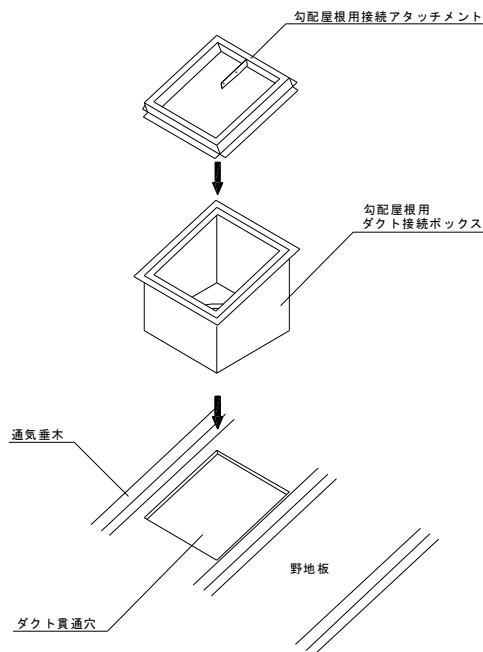
タイプ	各部寸法							屋根開口寸法	
	屋根勾配 A°	Bmm	Cmm	Dmm		Emm		間口方向	流れ方向
				ショート	ロング*	ショート	ロング*		
3寸勾配用	16.7	261	355	250	350	337	437	300	310
3.5寸勾配用	19.3	266	360	250	350	352	452	300	315
4寸勾配用	21.8	271	365	250	350	367	467	300	320
4.5寸勾配用	24.2	276	370	250	350	380	480	300	325
5寸勾配用	26.5	281	377	250	350	396	496	300	330
垂直貫通用	0	251	342	250	350	250	350	300	300

### 7-2 ダクト接続ボックスの取付

#### ① 予備集熱面ありの場合

勾配屋根用ダクト接続ボックスと接続アタッチメントを組合せて「7-1」の屋根開口に挿入します。接続ボックスを野地板に釘止めし、防水テープで止水処理して下さい。

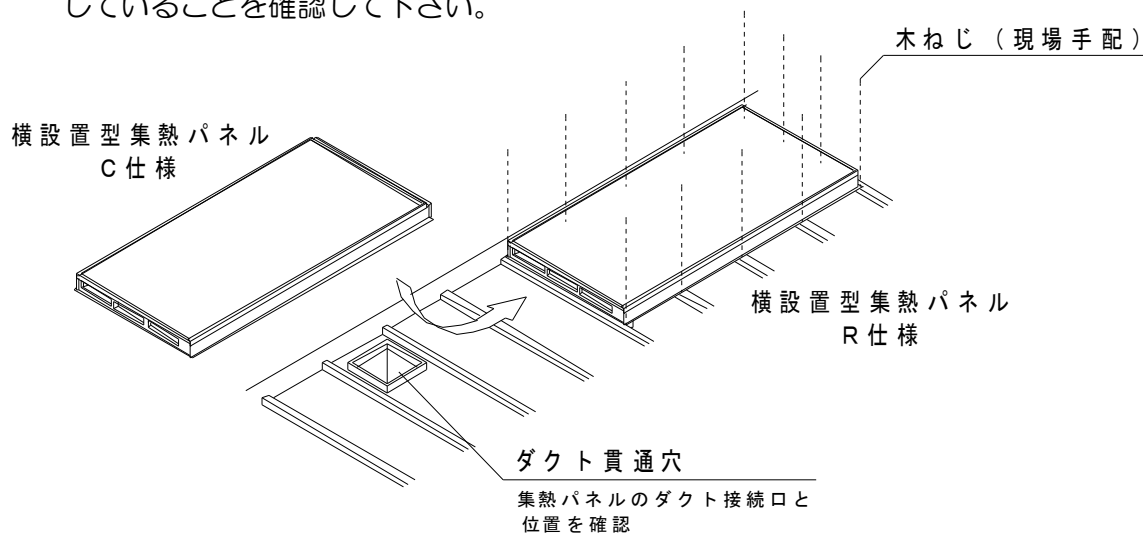
接続アタッチメントは、通気垂木の高さに合うようにH=30mmと36mmの2種類を用意しています。使用する垂木の寸法を確認の上で注文して下さい。



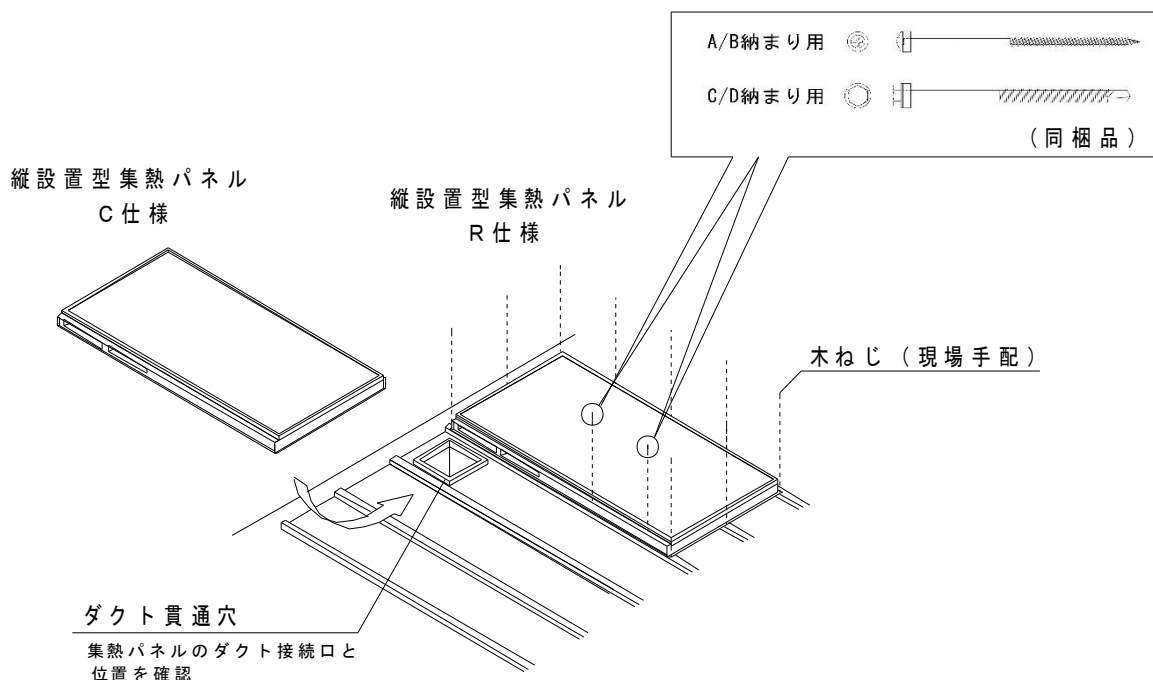
## 8、集熱パネルの取付

8-1 1基目は、集熱パネル・R仕様（軒先から見て右端）を「6」の墨に合わせて通気垂木に仮止めします。

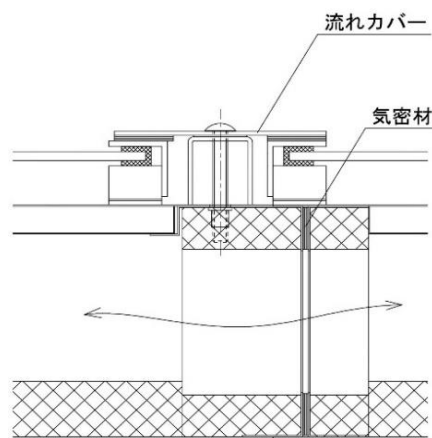
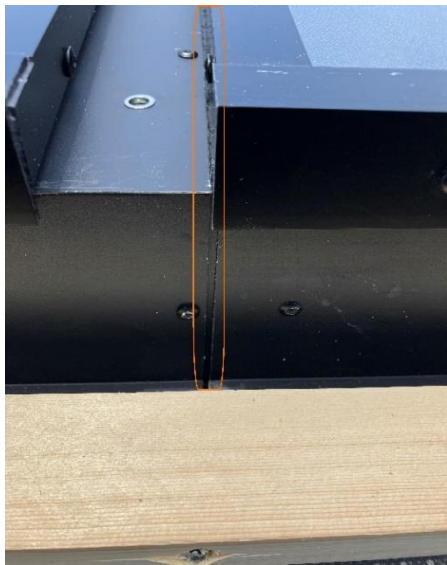
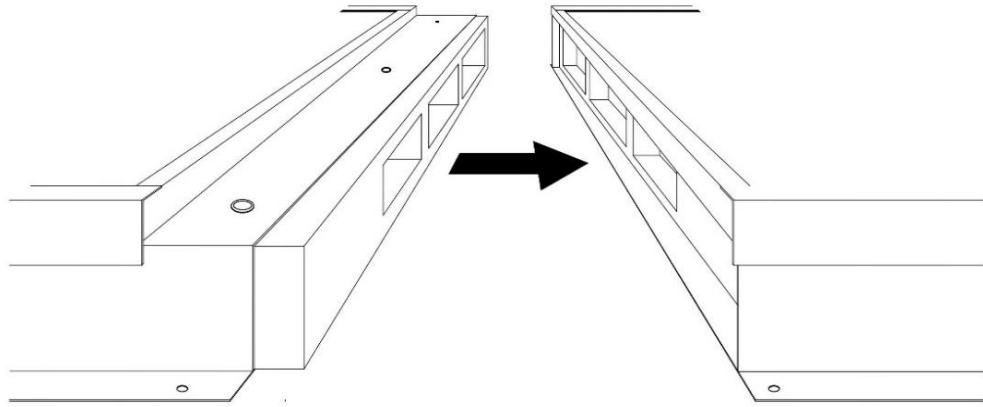
8-2 次に2基目の屋根用パネルを取付けます。ダクト接続口が有る場合は「5」のダクト貫通部と集熱パネルのダクト接続口が合うことを確認しながら、集熱パネルの連通部（♂）を（♀）部に挿入し、気密材をしっかり圧縮しながら通気垂木に固定して下さい。室内側からダクト貫通部を覗き、パネルの接続口が中央部に位置していることを確認して下さい。



縦設置型集熱パネルの場合は、パネル連結部に2本の長ビスを打ちます。



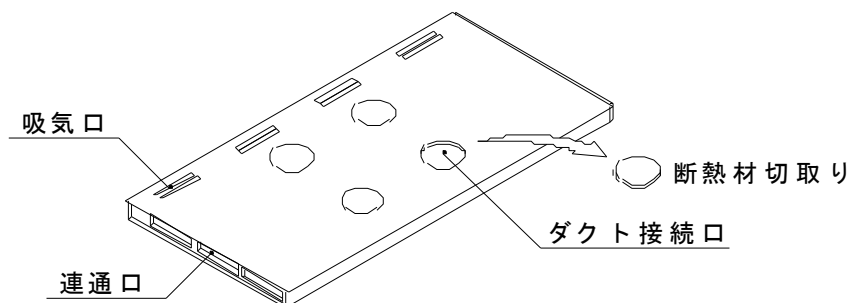
※パネル連結部には、気密材の汚損防止の剥離紙が貼ってありますので、施工時には必ずこれを取り除いて下さい。



パネル間のクリアランスが  
上下均等（1mm程度）に  
なるように調整して下さい。

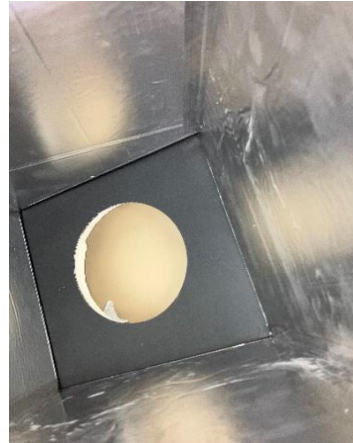
### 8-3 ダクト接続口の加工(全タイプ共通)

屋根用パネル裏面を見てダクト接続口とする部分の断熱材を切り抜いて下さい。  
断熱材は、カッターナイフ等で簡単に切り取ることができます。

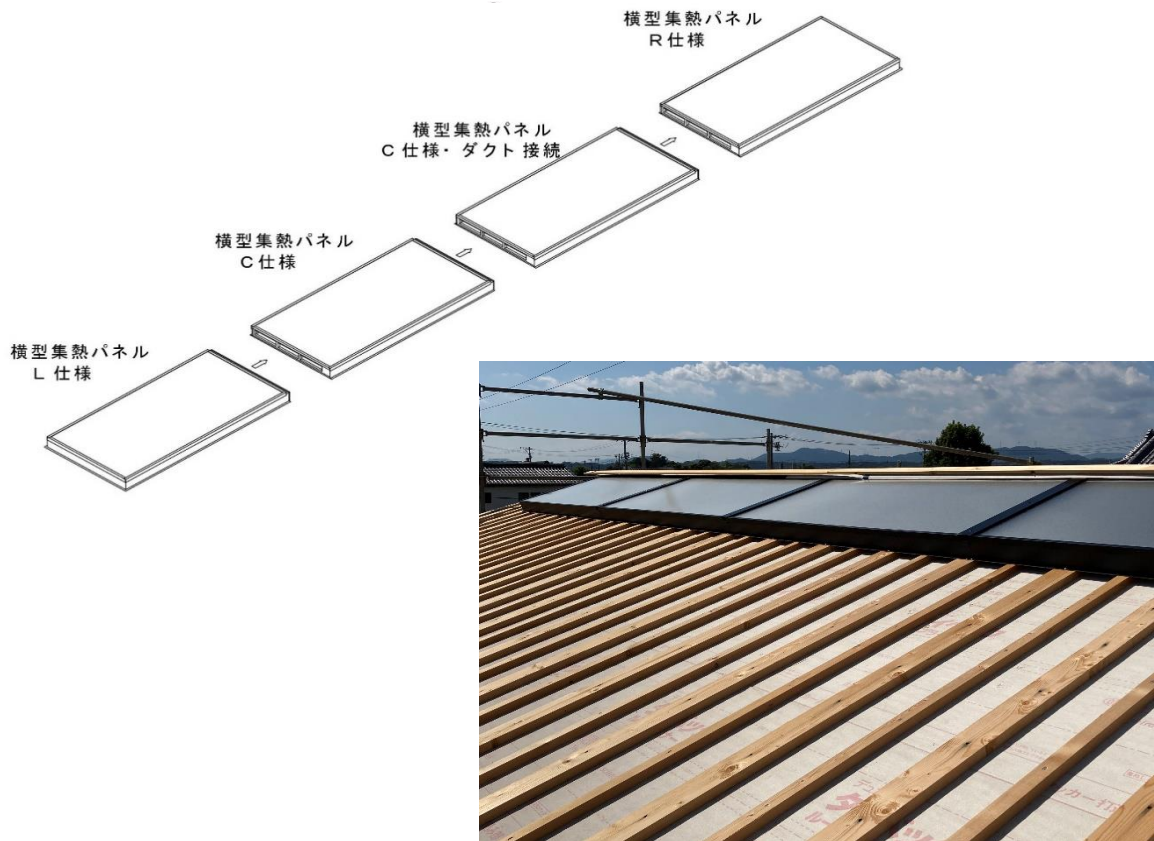


⚠	注意	切り取った断熱材をパネル内に残さないようにして下さい。
---	----	-----------------------------

室内側からダクト接続ボックス内を覗き、集熱パネルのダクト接続口が、ボックス内中心部辺りに納まっていることを確認してください。特に尺モジュール以外の寸法を採用している建物においては穴位置がずれてしまう恐れがあります。注意して下さい。



8-3 最後に取付けるのはL仕様(軒先側から見て左端)です。



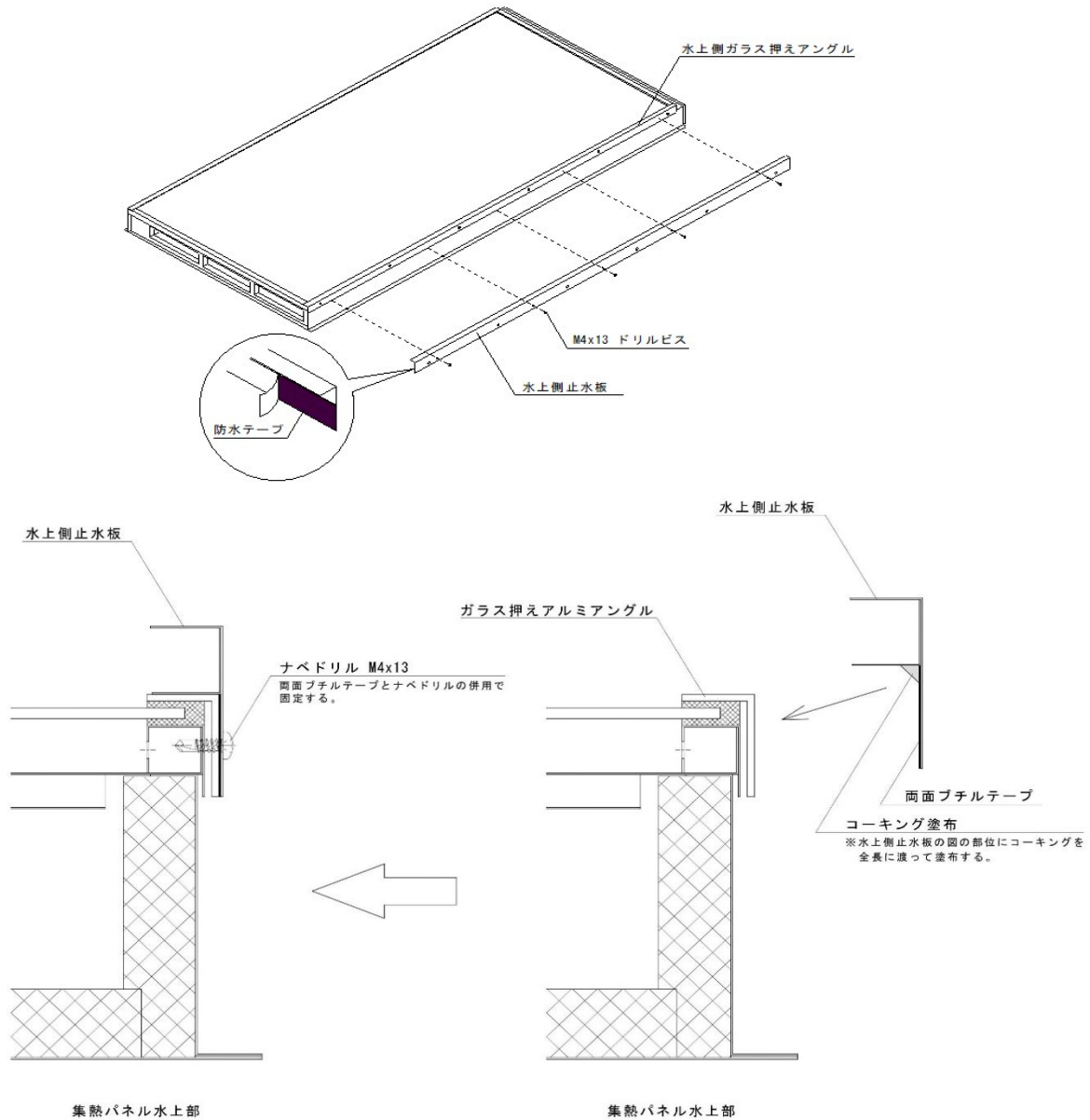
全てのパネルの通りを確認して、問題が無ければ正式に固定します。

	<b>警告</b>	集熱パネル上には極力載らないようにして下さい。 滑落やガラスを破損する恐れがあります。
	<b>注意</b>	連通部の気密材をしっかり密着させて下さい。 気密が悪いと集熱温度低下の原因になります。

## 9、水上側止水板

### 水上側止水板の取付け

「水上側止水板」は、棟部からパネル裏側へ雨水が浸入することを防ぐための部材なので、ガラス押えアングルにしっかり密着させ、隙間が生じた場合には、必要に応じてコーキング等でシールして下さい。



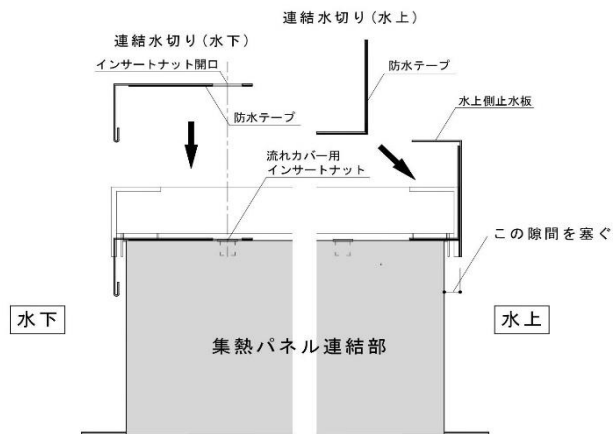
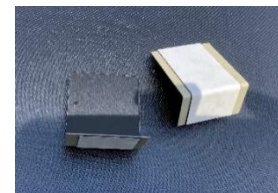
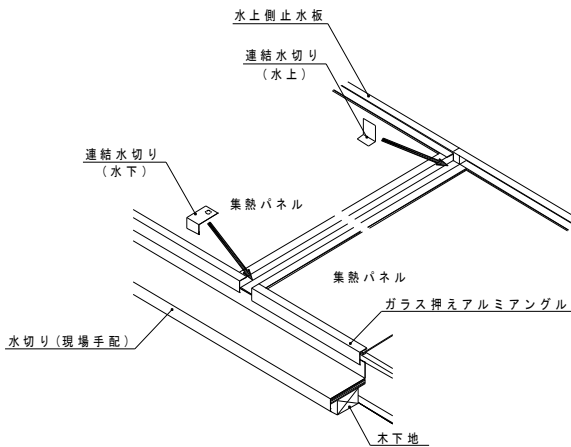
# 10、屋根との納まり

集熱パネルと棟や周辺屋根との取り合いについては、下図の要領で納めます。  
 パネル設置後に木下地を取付けて、屋根として機能するように施工して下さい。

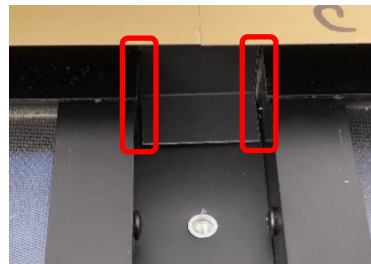


水下・棟側の納まり例

集熱パネルのガラス押え金物と本体との隙間に水切りを差し込んで納める場合、  
 連結部分で現場水切りが露出しますので、下図のように連結水切りを取付けます。  
 棟側は、水上側止水板との間に生じる隙間を塞ぐために連結水切り(水上)を取付け  
 ます。貼付の防水テープで水切りと止水板を貼り合わせて下さい。



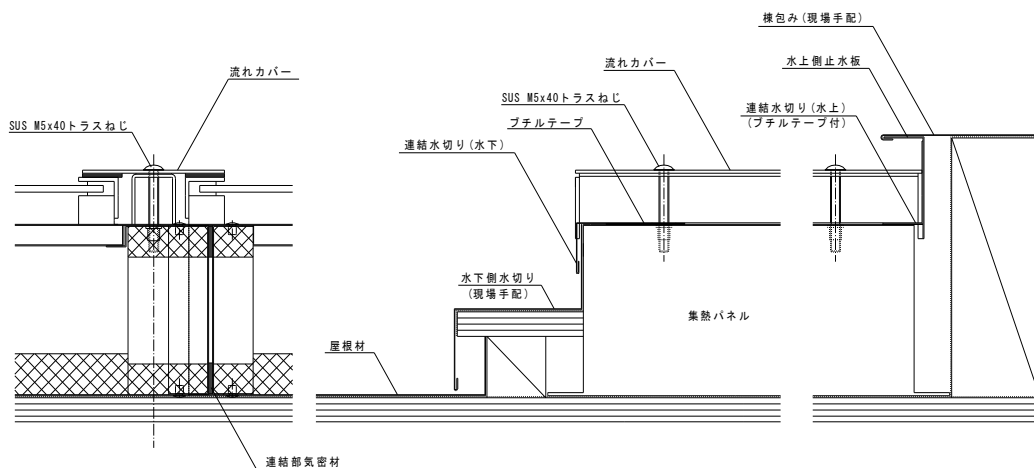
隙間が生じる



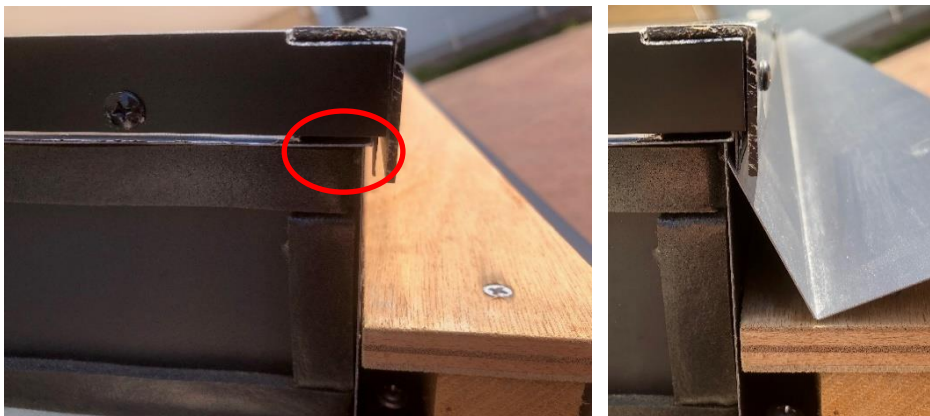
赤枠部分をコーキング処理して

連結水切り(水上)で隙間を塞ぐ





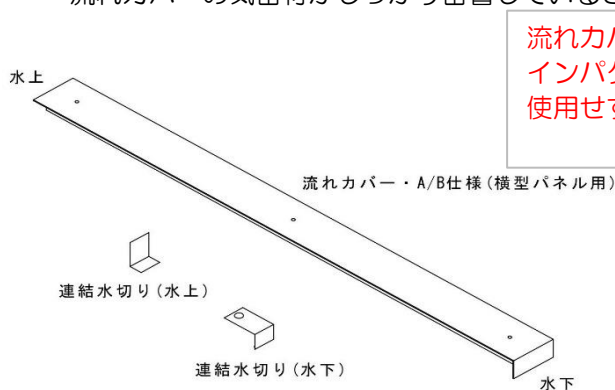
集熱パネル本体と屋根材が一体化するように仕上げてください。ただし集熱ガラスが破損して交換の必要が生じた際に対応ができるようにガラス押えアルミアングルが取り外せるように配慮しておいて下さい。



水下側、両ケラバ側における屋根材との取り合い部は、上の要領で水切りを取付けます。水切りの固定の為に本体にビス止めする事も出来ます。集熱パネルの水下側と両ケラバ側の納まりは、上図の○部分に現場手配の水切りを差し込んで納めます。これによりガラス押えアングルの内側に浸入した雨水は水切りの上に落ちるようになります。

## 11、流れカバーの取付

水切りの施工が完了したら流れカバーを取付けます。(M5x40トラスねじ)  
流れカバーの気密材がしっかり密着していることを確認して下さい。



流れカバー取付ねじは、インパクトドライバーを使用せず、手で締めて下さい。



連絡水切り(水下)



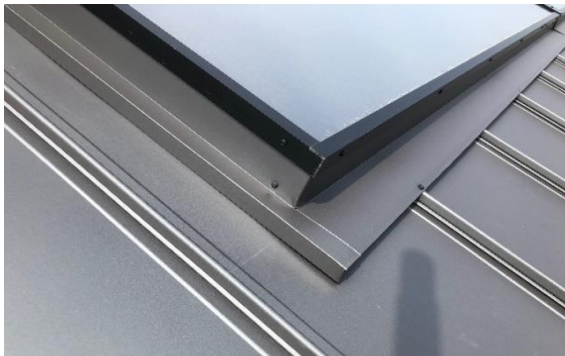
流れカバー

	警告	集熱パネル上には極力載らないようにして下さい。 滑落やガラスを破損する恐れがあります。
	注意	流れカバーを固定するねじは、手で締め加減を 確認するようにして下さい。

## 12、屋根仕上

周囲の屋根との納まり例です。

集熱パネルを屋根になじませるように納めて下さい。



企画・設計 **合同会社サンシャイン・ラボ**

〒430-0947 静岡県浜松市中央区松城町200-9 臼井ビル2階

TEL : 053-401-4008 FAX : 053-401-4009

2024/5/12